

6. パキスタン

1) 政治・経済・民生の動向

(1) 略史

- 1947年 インドからイルラム教徒の国家として独立
第一次印パ戦争（カシミールの帰属問題）、49年停戦
- 1965年 第二次印パ戦争、66年ソ連仲介による「タシケント宣言」で正常化
- 1970年 総選挙で東パキスタンの自治を要求するアワミ連盟が大勝
- 1971年 東パキスタン独立宣言、1972年 バングラディシュ誕生
- 1971年 パキスタン人民党（PPP）のブット総裁大統領就任、首相内閣制の憲法制定
- 1977年 ハク陸軍参謀長による無血クーデター、厳戒令、78年大統領に就任
- 1979年 ブット前首相、殺人教唆罪などで処刑
- 1985年 政党参加なしの総選挙、文民内閣発足、戒厳令解除
- 1988年 ハク大統領、搭乗空軍機墜落で死亡。総選挙で PPP 第一党、ブット首相就任
- 1990年 カーン大統領、ブット首相を解任。総選挙でイスラム民主同盟が大勝、ナズワ・ジャフリが首相就任。

(2) 内政

- ・政体 73年憲法に基づきイスラムにより規定された民主主義、自由、平等、寛容および社会主義の共和国で連邦制
- ・憲法 73年8月発効、国教はイスラム教、4州連邦制、基本的人権の保護、社会主義、議院内閣制、二院制議会、司法の独立
- ・行政制度 内閣：食糧・農業・共同組合省、地方自治・農村開発省、
- ・軍事 国防費：予算の 27 %（陸軍 50 万人、海軍 2.5 万人、空軍 3 万人）・シンド問題（カラチ問題） ムハージル（印パ分離独立前後のインドなどからの移住民）などの移住民と先住民の抗争。カラチ、ハイデラバードなどシンド州主要都市に拡大。

(3) 外交

- ・イスラム諸国との友好連帯強化、非同盟諸国と協力、大国とは国益優先の等距離外交
- ・アフガニスタン問題 反政府ゲリラ、パキスタン北西辺境州のペシャワールに本拠。1989年、アフガニスタン暫定政府、ラワールピンディーに樹立。
- ・印パ関係 カシミール問題、インド・パンジャープ州のシク教徒過激派問題、インダス水系の水利権問題
- ・対日関係 83年ハク大統領訪日、84年中曽根首相来訪、90年海部首相来訪、経済協力の分野で進展

(4) 経済

担当：尾和 尚人

- ・概況 89/90年GDP成長率 5.2%、農業 4.0%、製造業 7.9%。国民所得 436ドル。主要課題：赤字財政、国際収支の改善、外貨準備、インフレ抑制
- ・財政・金融 中央財政と州財政。中央財政は経常勘定と開発勘定。収入は租税と外国援助。金融機関国有化(1974)。中央銀行：パキスタン国立銀行
- ・国家予算 防衛費と債務返済で経常支出の 90%。
- ・産業・資源 GDPの 26%農業、17~18%工業。工業生産：綿糸、綿布、セメント、尿素、砂糖、植物油。天然資源：石油・天然ガス開発(OGDC)、石炭、石灰岩、石膏、岩塩。電力：WAPDA（パキスタン水動力開発庁）水力発電；タラベラ、マングラ、ワルサク。KESC（カラチ電力会社）火力発電。原子力発電（カラチ）。
- ・第7次5カ年計画（88年~93年）：民活、海外援助率引き下げ。経済目標：年平均成長率 GDP 6.5%、GNP 6.3%、農業 4.7%、製造業8.1%、輸出 9.1%。政策目標：完全雇用、人的資源開発、医療・交通等公共サービス充実、対外依存体質改善、民間活力導入、財政赤字削減、輸出振興による国際収支改善、物価安定（インフレ抑制）。
- ・貿易：主要輸出品：綿花、綿糸、綿布、既成服、米、皮革。主要輸入品：機械、原油、輸送設備、植物油、鉄鋼品。輸入相手国：米、日、独、クウェート、英、サウジアラビア。輸出相手国：日、米、英、独、香港、伊。
対日輸出：綿糸、エビなど5億8900万ドル、輸入：機械、自動車など10億2800万ドル
- ・外国援助：日本（最大の援助国、88/89 7億4590万ドル）、インダス高速道路（カラチ〜ペシャワール）、米（4億500万ドル）、世銀（89-90 8億ドル）ADB（7億1000万ドル）。
- ・人口：1 億1,036万人（90年）、82~89年人口増加率 3.0%、2,000年に1億5000人、婦人 1人当たり6.9人の子供。

2) 農林業動向

- ・パキスタンの経済：農業に基礎を置いて発展。現在もこの基調は不変。
- ・第6次5カ年計画（84~89）：農業分野の開発戦略目標；米、小麦の安定輸出、食用油の自給率向上、中近東向け野菜、果物、酪農製品の増産。肥料助成金の大幅削減。生産支援施設の拡充：米、小麦の備蓄強化・流通改善：穀物倉庫建設、かんがい施設の改良、拡充。関連産業の育成近代化：農産物加工業、化学肥料、農業機械、繊維産業振興。
- ・第6次5カ年計画の実績（84/85/88/89:1,000トン;1,000ha）：生産；小麦11,703/14,419、米 3,315/3,200、トウモロコシ 1,028/1,204、綿花 1,008/1,426、砂糖キビ 32,140/36,916、菜種 235/249
- ・第7次5カ年計画（88年~93年）：年平均成長率；農業 4.7%、農工業生産の効果的開発
- ・新工業政策：国営企業の民営化推進、規制緩和。外資導入促進分野：畜産業、種子業、酪農、家禽、漁業。禁止分野：農地関連ビジネス、林業、かんがい

3) 農林業技術動向

- ・国土面積 8,800万ha、この内農耕地 2,010万ha(25%)、無作付 1,200万ha、荒廃地 1,880万ha、森林 270万ha。

- ・限界地 6,100万haで国土の 65%。 州面積 (mha、限界地%) : パンジャブ 20.6(47)、シンド 14.1(65)、北西辺境 10.1(55)、バルチスタン 34.7(93)、北部 3.5(50)。
- ・乾燥地農業 : 非かんがい・天水地域 ; 小麦の12.5%、アズキモロコシ 63%、ミレット31%、大麦 53%、ヒヨコマメ 65%、豆類 17%、ピーナッツ 82%、ゴマ 17%、菜種・カラシナ 23%、
- ・限界地の牧畜 : 9,700 頭の家畜 : 羊・山羊の 60%、馬、ロバ、ラクダの40%、牛・水牛の 5~10%。過去10年間に限界地の家畜頭数は倍加。過放牧により生産能は 10~50%に低下。
- ・かんがい農業 : 8,9000 の水路、1,270万ha、 400万戸の農家、
- ・沙漠化 : 国土の 60%が沙漠化。地下水上昇、塩類化による荒廃地 (パンジャブ)、地下水水質悪化、地下水低下による村落・水利施設の放棄 (シンド)、河川・水利施設の土砂による埋設、傾斜地の岩石・土壌の地滑り、洪水、砂移動による農業施設と限界地の埋没。
- ・塩類化 : 耕地の25%、強度に塩類化 8%、パンジャブ : 低 7.0%、中 4.0%、強 3.0%、シンド : 低 19.0%、中 11.0%、強 18.0%。
- ・地下水上昇 : パンジャブ ; 0~1.5m 24%、1.5~3.0m 76%。シンド 0~1.5m 24%、1.5~3.0m 76%

4) 国立農業研究機関(NARS)の現状

(1) PARC (Pakistan Agricultural Research Council) : 農業研究を統括

(2) NARC (National Agricultural Research Centre) : 総合研究所

28 の共同研究プログラムを統括 :

- (a) Crops: ①Wheat, Barley & Triticale, ②Maize, ③Sorghum & Millt, ④Rice, ⑤Oilseeds (Conventional), ⑥Oilseeds (Non-conventional), ⑦Food Legumes, ⑧Potato, ⑨Vegetables, ⑩Fruits, ⑪Sugar Crops, ⑫Fodder ⑬Weeds, ⑭Edible Mushuroom
- (b) Livestock: ①Feed Resources & Nutrition, ②Buffalo Reproductive ③Physiology ④Sheep & Wool, ⑤Epidemiology of Live Diseases
- (c) Natural Resources: ①Revision of Standards & Specifications for Water Management ②Soil Productivity through Biological Means, ③Water Measurement ④Micronutrients, ⑤Soil Capability Assessment Network, ⑥Sericulture, ⑦Ecological Zones, ⑧Agro-forestry

(3) 専門研究所 : ① Crop Diseases Research Institute: 耐病性品種の育成 小麦のサビ病の防除、② Arid Zone Research Institute (Quetta): Sub-station; Umerkot (Sindh), Bahawalpur (Punjab), D.I. Khan (NWFP) : 小麦、大麦、lentil、chickpeaの多収性品種の育成、乾燥地の多収技術 ③ Agricultural Research Institute for Northern Areas (Jaglot, Gilgit) : 乾燥高地農業 ; 落葉果樹、野菜、小麦、トウモロコシ、食用豆科植物、果樹、森林、薬用植物 ④ Hill Agricultural Research Station (Kaghan) : 湿潤高地農業 ; 多収性品種の促成開発 ⑤ National Tea Research Station (Shinkiari, Mansehra,) : 茶の育種、栽培技術、加工技術 ⑥ Southern Zone Agricultural Research

Institute: シンド州の海岸地帯に設置。sugarcane の品種改良、coconut, oilseed, chich, cashewnut, arecanut, avocado, papaya, banana 等熱帯作物の導入。海岸地帯の栽培体系
⑦ Pest Management Research Institute (Karachi): 穀物貯蔵、農薬処理、家畜病害防除、ポストハーベストレソの削減

(4) 主要成果

① 多収性品種の開発

- ・ ジーンバンク: 1981年に設立、26作物、15,000品種、国立および州立研究機関に配布。
標準収量試験: 育成品種の現地試験油用作物 Sarsonの無毒性品種(Canola Oil)、早生多収性 Groundnuts BARD-699 (成熟 3週間早く、60%増収)、
- ・ 組織培養: ジャガイモ無菌種イモ、20,000 種、FAO/UNDP Project (Gilgit)、Pak-German Seed Potato Project (Abbottabad)、Pak-Swiss Potato Project. ナツメヤシの吸枝の微小繁殖技術(Micro Propagation Technique)。
- ・ 果樹: 15種 127品種の接ぎ木、8,400本のブドウ、カンキツ、落葉性果樹、イタリアから導入。
- ・ 野菜: プラスチックトンネルによる季節外栽培: トマト (Tobal, Adalya, Dario)、キュウリ、初期投資高いが、収入大

② 新作物の導入

- ・ お茶: 中国、スリランカから品種導入(1984, Hazara, NWFP); 中国種 Qi-men, Jeu-Keng, Ruopi, Chuye, Huang-Shan. Tea Research Station (Shinkari, Mansehra): 品種評価・選抜、施肥技術、病虫害防除。
- ・ ココナッツ: スリランカ、インドネシアから導入。高樹種、萎性種、ハイブリッド種。

③ 増収技術

- ・ Crop Maximization Programme (CMP)
- ・ トウモロコシ: ① 深耕 (収穫後、30-35cm) 《mouldboard/chisel plough》、② 地ならし 《Rotary harrow/rotavator》③ 基肥 (N 46: P 92 kg/ha) ・ 播種・殺虫剤散布 (Furadan 12 kg/ha) 《Gaspardo maize planter》、④ 除草剤散布 (発芽前、Primextra 2.5 liters/ha) 《PTO》、⑤ 追肥 (播種後 25-30日、N 57 kg/ha)、⑥ 殺虫剤散布 (播種後 30-40日、Furadan 18.5 kg/ha)
- ・ コムギ: ① 深耕 (トウモロコシ、イネ収穫後、30-35cm) 《mouldboard/chisel plough》、② 地ならし 《Rotary disc harrow》、③ 基肥 (N 50: P 108 kg/ha, Gujrat; N 46: P 92 kg/ha, Islamabad & Mardan)、④ 播種 (100 kg/ha)、⑤ 追肥 (播種後 30-35日、N 57 kg/ha)、⑥ 収穫 《Cutter binder rotary disc harrow》

5) 研究ニーズ

(1) 現状分析: 農業諮問委員会報告 (1988.3)

- ① パキスタン農業は、主要な部分について、ほぼ自給を達成したが、今後は年平均5%を実現し、経済開発の中心的役割を果たさなければならない。
- ② 1980年代までの農業で成功した分野は、小麦、米、綿、養鶏で、失敗した分野は、食用油、砂糖きびであり、豆乳と牛乳の生産でも問題を残した。

- ③耕地拡大、用水確保が限界に近いので、今後は土地生産性の向上に重点を置くべきである。
- ④これまで伝統的な主穀生産に技術、価格政策が偏っていた。今後は、野菜、果物、畜産、農産加工など高付加価値分野に重点を移し、農業セクターの多様化を図る必要がある。
- ⑤農村インフラの整備、自治組織の強化、小農への支援体制の強化、資源保全への配慮が必要である。

(2) 配慮すべき主要な問題点

- ① パキスタンでは、灌漑用水が確保され、化学肥料など農業資材の確保も農業生産の制約条件とはなっていない。
- ② 各種の作物で試験場における収量値と現場における収量値が著しく異なり、土地の潜在能力が発揮されず、土地生産性が依然として低い。
- ③ 開発された技術の現場への普及、定着が遅れており、この点を克服することが土地生産性向上のポイントである。

(3) 予想される研究課題

- ①小麦、水稲、綿などの主要作物の栽培技術の向上
- ②多収性油用作物の開発と栽培技術の向上
- ③野菜、果物の新品種の導入と栽培技術の向上
- ④畜産、農産加工技術の開発
- ⑤灌漑施設の整備と管理技術の向上
- ⑥環境資源の保全

6) 共同研究への戦略的アプローチ

- (1) 本年度より熱研プロジェクト「熱帯耕地の侵食・劣化動態と対策の開発」についてパキスタン農業研究会議とMOUが締結され、共同研究が開始されることになっている。
- (2) パキスタンの農業情勢、研究ニーズ、地理的条件、わが国の研究資源などの観点から、本プロジェクトの開始は妥当であると考えられる。
- (3) 本プロジェクトを確実に推進することが当面の目標である。
- (4) 他分野の共同研究は本プロジェクトを推進するなかで、パキスタンの研究情勢、研究環境をより正確に把握、分析して判断することが望ましい。

7) 共同研究実施上の問題点

- (1) 政情が不安定であるので、適確な情勢対応が必要である。
- (2) 研究施設、研究資金の外国依存性が極めて強いので、分析機器や人件費の提供に偏することなく、実質的な研究推進と研究資源の育成ができるように配慮が必要である。

主要統計 パキスタン 1990年

第1表 産業別国内総生産

第7表 輸入構造

第2表 主要農産物作付面積・生産高の推移

第8表 外国援助契約額の推移および対外債務残高

第3表 主要鉱工業生産高

第9表 国際収支

第4表 貿易の推移

第10表 外貨準備

第5表 輸出入品目構成

第11表 物価指数

第6表 主要相手国・地域別輸出額の推移

(使用記号: — 該当なし, ... 不明, 0 ゼロ・極少)

対米為替レート (1米ドル=ルピー)

年	1984.7~85.6	1985.7~86.6	1986.7~87.6	1987.7~88.6	1988.7~89.6	1989.7~90.6
ルピー	15.159	16.131	17.165	17.555	19.162	21.393

第1表 産業別国内総生産 (年度は7月~6月)

a. 1980/81年度固定価格

部 門	価格 (100万ルピー)			対前年増加率(%)		構 成 比(%)		
	1987/88	1988/89 ¹⁾	1989/90 ²⁾	1988/89	1989/90	1987/88	1988/89	1989/90
農 業	99,108	106,138	110,346	7.09	3.96	25.71	26.27	25.97
鉱 業	2,029	2,071	2,272	2.07	9.71	0.53	0.51	0.53
製 造 業	67,622	70,300	75,847	3.96	7.89	17.55	17.4	17.85
大 規 模	50,043	51,244	55,190	2.4	7.7	12.99	12.68	12.99
小 規 模	17,579	19,056	20,657	8.4	8.4	4.56	4.72	4.86
建 設 業	16,563	16,937	17,466	2.26	3.12	4.3	4.19	4.11
電気・ガス供給	10,711	12,125	13,126	13.20	8.26	2.78	3.0	3.09
運輸・倉庫・通信	39,293	39,078	40,903	-1.0	4.67	10.19	9.67	9.63
卸売・小売業	63,932	67,400	70,696	5.42	4.89	16.59	16.68	16.64
銀行・保険業	9,452	8,512	8,786	-10.0	3.22	2.45	2.11	2.09
住宅所有	20,828	21,928	23,086	5.28	5.28	5.4	5.43	5.43
行政・国防	27,666	29,511	30,405	6.67	3.03	7.18	7.3	7.15
サービス業	28,212	30,054	32,017	6.53	6.53	7.32	7.44	7.53
国内総生産(要素費用)	385,416	404,054	424,950	4.84	5.17	100.00	100.00	100.00
海外からの純要素所得	17,100	14,540	14,664	-14.97	0.85			
国民総生産(要素費用)	402,516	418,594	439,614	3.99	5.02			
人 口 (100万人)	103.82	107.04	110.36	3.10	3.10			
1人当り粗所得(ルピー)	3,877	3,911	3,983	0.88	1.84			

b. 名目価格

国内総生産(要素費用)	601,025	686,407	776,933	14.21	13.19
海外からの純要素所得	29,095	27,269	31,329	-6.28	14.89
国民総生産(要素費用)	630,120	713,676	808,262	13.26	13.25
1人当り粗所得(ルピー)	6,069	6,668	7,325	9.87	9.85

(注) 1) 修正値。2) 暫定値。

(出所) Government of Pakistan, Pakistan Economic Survey, 1989-90, 巻末統計29, 35ページより作成。

第2表 主要農産物作付面積・生産高の推移（年度は7月～6月）

（単位：1,000ha；1,000トン）

品 目	1984/85		1985/86		1986/87		1987/88		1988/89		1989/90*	
	面積	生産	面積	生産	面積	生産	面積	生産	面積	生産	面積	生産
小麦	7,259	11,703	7,403	13,923	7,706	12,016	7,308	12,675	7,730	14,419	7,755	15,000
米	1,999	3,315	1,863	2,919	2,066	3,486	1,963	3,241	2,042	3,200	2,115	3,222
トウモロコシ	809	1,028	804	1,009	816	1,111	854	1,127	866	1,204	810	1,179
その他	1,188	646	1,122	611	1,090	1,469	758	428	1,100	572	1,090	587
食糧農産物計	11,255	16,692	11,192	18,462	11,678	18,082	10,883	17,471	11,738	19,395	11,770	19,988
綿花	2,242	1,008	2,364	1,208	2,505	1,309	2,568	1,468	2,619	1,426	2,617	1,455
（ベイル表示綿花） （1,000ベイル）	—	（5,930）	—	（7,155）	—	（7,760）	—	（8,633）	—	（8,385）	—	（8,560）
砂糖キビ	904	32,140	780	27,856	762	29,926	842	33,029	877	36,916	842	36,188
菜種、カラシ菜	347	235	351	250	303	213	269	204	334	249	322	245
タバコ	50	87	46	78	39	69	42	70	41	74	41	74
ゴマ	34	14	37	15	33	13	18	07	25	10	28	15
主要換金作物計	3,577	33,484	3,578	29,407	3,642	31,536	3,739	34,778	3,896	38,675	3,850	37,977

（注）*暫定。

（出所）Government of Pakistan, Pakistan Economic Survey, 1989-90, 45-46ページより作成。

第3表 主要鉱工業生産高（年度は7月～6月）

品 目	単 位	1984/85	1985/86	1986/87	1987/88	1988/89	1989/90 ¹⁾
砂糖	1,000トン	1,306	1,116	1,286	1,771	1,858	1,714
植物油	1,000トン	640	612	609	697.0	640.0	530.0
綿糸	100万キログラム	431.7	482.2	586.4	685.0	757.9	279.2 ²⁾
綿布	100万平方メートル	271.8	253.5	237.9	281.6	269.9	92.4 ²⁾
ソーダ灰	1,000トン	122.1	128.4	130.3	134.1	144.3	119.6
苛性ソーダ	1,000トン	46.0	54.8	54.9	61.3	66.5	55.2
硫酸	1,000トン	77.9	80.4	77.6	78.7	78.8	59.7
尿素	1,000トン	1,814.8	1,820.2	1,992.6	1,985.1	2,008.6	1,411.3
過磷酸肥料	1,000トン	105.8	105.8	107.6	107.8	140.7	108.6
窒素肥料	1,000トン	406.4	394.3	413.3	332.7	350.6	228.3
硫酸アンモニウム	1,000トン	79.0	92.3	91.6	98.3	98.1	63.0
窒素磷酸肥料	1,000トン	308.3	321.4	323.4	333.7	330.8	215.6
セメント	1,000トン	4,732	5,773	6,508	7,072	7,125	5,516
自転車	1,000台	462.6	447.8	593.1	654.7	560.3	315.7
ミシン	1,000台	67.2	78.6	85.0	86.0	83.5	49.5
扇風機	1,000台	178.8	190.1	208.2	146.1
軟鋼製品	1,000トン	718.5	731.7	782.3	869.7
石炭	1,000トン	2,168	2,115	2,157	2,727	2,619	1,823 ³⁾
石灰石	1,000トン	4,634	6,313	6,885	7,610	7,249	5,938 ³⁾
原油	100万バレル	9.5	14.4	15.0	16.31	17.07	14.42 ³⁾
天然ガス	10億立方メートル	10.3	10.8	11.2	12.4	12.9	10.0 ³⁾

（注）1) 1989年7月～90年3月, 2) 1989年7月～10月, 3) 推定。

（出所）Government of Pakistan, Pakistan Economic Survey, 巻末統計69-70, 80-82, 84ページより作成。

第4表 貿易の推移 (年度は7月～6月)

(単位: 100万ルピー)

年 度	輸 出	輸 入	貿 易 収 支	輸出/輸入比率 (%)
1969/70	1,609	3,285	-1,676	49.0
1979/80	23,410	46,929	-23,519	49.9
1985/86	49,592	90,946	-41,354	54.5
1986/87	63,355	92,431	-29,076	68.5
1987/88	78,445	112,551	-32,937	70.4
1988/89	90,183	135,841	-45,658	66.4
1989/90*	74,355	108,723	-34,368	68.4

(注) *1989年7月～90年3月。

(出所) Government of Pakistan, Pakistan Economic Survey, 1989-90, 巻末統計154～155ページより作成。

第5表 輸出入品目構成 (年度は7月～6月)

(単位: 100万ルピー)

年 度	1979/80	1984/85	1986/87	1987/88	1988/89	1989/90*
輸 出						
綿 花	3,321	4,368	7,676	10,759	18,032	6,862
綿 糸	2,038	3,974	8,709	9,530	11,645	11,929
綿 布	2,416	4,638	5,931	8,540	8,947	8,752
衣 類	731	2,662	7,759	8,521	9,692	10,254
じゅうたん・敷物	2,198	2,031	3,439	4,445	4,451	3,346
米	4,179	3,340	5,139	6,404	5,967	3,062
皮革・皮革製品	1,264	2,325	4,079	5,042	4,702	4,255
魚・魚加工品	531	1,231	1,930	2,186	2,096	1,480
医 療 器 具	240	774	956	998	1,221	986
スポーツ用品	245	674	1,000	1,145	1,369	1,444
そ の 他	6,247	11,962	16,737	20,875	22,061	21,985
合 計	23,410	37,979	63,355	78,445	90,183	74,355
輸 入						
化 学 製 品	895	5,604	8,846	10,394	13,046	10,011
薬 品	751	1,974	2,638	2,852	3,318	2,772
化 学 肥 料	2,711	1,790	3,247	3,162	3,534	3,902
電子・電気機器	1,804	2,477	3,118	3,688	4,962	2,879
機 械 類	5,590	13,437	15,635	19,617	26,597	18,149
輸 送 機 械	4,903	7,816	8,791	9,564	8,403	6,949
茶	954	3,507	2,648	2,246	2,975	2,687
鉄 鋼 製 品	2,992	3,938	4,666	5,053	7,131	4,950
原油・石油製品	10,685	21,763	13,977	17,270	18,509	18,997
食 用 油	2,295	6,954	4,062	7,769	8,576	6,180
穀 類	1,050	2,910	1,754	2,357	8,598	8,839
そ の 他	8,774	12,844	14,512	20,148	21,290	14,533
合 計	43,404	85,014	83,894	99,120	126,939	100,848

(注) *1989年7月～90年3月。

(出所) Government of Pakistan, Pakistan Economic Survey, 1989-90, 巻末統計156～161および163～164ページより作成。

第4表 貿易の推移 (年度は7月～6月)

(単位: 100万ルピー)

年 度	輸 出	輸 入	貿 易 収 支	輸出/輸入比率 (%)
1969/70	1,609	3,285	-1,676	49.0
1979/80	23,410	46,929	-23,519	49.9
1984/85	37,979	89,778	-51,799	42.3
1985/86	49,592	90,946	-41,354	54.5
1986/87	63,355	92,431	-29,076	68.5
1987/88	78,445	111,382	-32,937	70.4
1988/89*	61,205	95,854	-34,649	63.9

(注) *1988年7月～89年3月。

(出所) Government of Pakistan, *Pakistan Economic Survey, 1988/89*, 巻末統計140ページより作成。

第5表 輸出入品目構成 (年度は7月～6月)

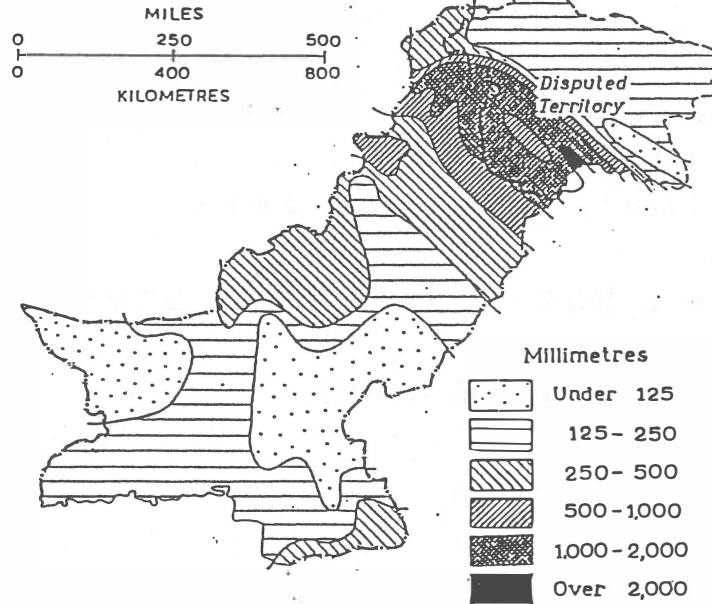
(%)

年 度	1969/70	1979/80	1984/85	1985/86	1986/87	1987/88	1988/89*
輸 出							
綿 花	13.1	14.2	11.5	16.7	12.1	13.7	18.9
綿 糸	15.8	8.7	10.5	9.1	13.8	12.1	12.6
綿 布	16.0	10.3	12.2	10.2	9.4	10.9	10.7
衣 類	1.2	3.1	7.0	8.5	12.3	10.9	11.3
じゅうたん・敷物	3.4	9.4	5.3	5.4	5.4	5.7	5.0
米	5.8	17.9	8.8	11.1	8.0	8.2	5.4
皮革・皮革製品	6.8	5.4	6.1	5.9	6.5	6.4	5.3
魚・魚加工品	5.2	2.3	3.2	2.7	3.1	2.8	2.8
医 療 器 具	0.9	1.0	2.0	1.7	1.5	1.3	1.1
ス ポ ー ツ 用 品	1.9	1.0	1.8	1.6	1.6	1.5	0.2
そ の 他	30.0	26.7	31.5	27.0	21.8	26.5	26.7
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
輸 入							
化 学 製 品	2.8	1.9	6.2	7.3	9.6	9.3	8.9
薬 品	1.9	1.6	2.2	2.5	2.9	2.6	2.4
化 学 肥 料	8.6	5.8	2.0	2.3	3.5	2.8	3.7
電子・電気機器	6.7	3.8	2.8	3.4	3.4	3.3	3.8
機 械 類	21.6	11.9	15.0	16.4	16.9	17.6	20.6
輸 送 機 械	10.4	10.4	8.7	10.1	9.5	8.6	6.1
茶	0.0	2.0	3.9	2.4	2.9	2.0	2.1
鉄 鋼 製 品	11.0	6.4	4.4	4.8	5.0	4.5	4.8
原油・石油製品	6.3	22.8	24.2	18.4	15.1	15.5	12.3
食 用 油	2.3	4.9	7.7	6.7	4.4	7.0	6.5
穀 類	1.7	2.2	3.2	5.6	1.9	2.1	3.8
そ の 他	26.8	26.2	19.6	20.1	24.9	24.7	25.0
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) *1988年7月～89年3月。

(出所) Government of Pakistan, *Pakistan Economic Survey, 1988/89*, 巻末統計142～151ページより作成。

AVERAGE ANNUAL RAINFALL PAKISTAN



IRRIGATION PAKISTAN 1965

